

令和 8 年度 学校評価書

(計画段階・実施段階)

福岡県立 宗像 中学校

自己評価				
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)
学校運営方針	1 高い志と夢を原動力に学びを深め、失敗を挑戦の証として捉え、粘り強く努力し続けるGRIT (やり抜く力) を持った生徒を育む。 2 宗像の足元を見つめ、世界の空を見上げる好奇心を持ち、地域や社会の課題に自ら問いを立て、新たな価値を創造する生徒を育む。 3 感謝と思いやりの心を基盤に、多様な他者と対話し、信頼関係を築きながら協働して高め合える品格ある生徒を育む。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】学校行事や生徒会活動等の教育活動において、生徒が自ら考え行動する場面を設定したことにより、主体性や協働性の育成に一定の成果が見られた。 また、研修部を中心に、ICTを活用した授業改善も進み、次年度に向けて多様な学力に応じた学びの充実を図るための準備 (AIの活用等) が着実に進んでいる。 【課題】6年間を見通し、学年ごとに学習内容や探究活動が段階的に深まるような指導計画の整理が必要である。	「GRIT (やり抜く力)」の育成と挑戦の習慣化	学習記録帳『夢に向かって』を活用し、学習意義を自問しながら計画を立て、日々の学習を粘り強くやり抜く習慣を定着させる。		
		学習や部活動等で「高めの目標」を設定させ、困難に直面しても解決策を自ら考え、再挑戦するサイクルを確立する。		
		生成AI等のICTを活用し、自らの弱点克服や知的好奇心の追求に取り組む「個別最適な学び」を実現する。		
	地域と世界を結び、未来を拓く「探究」の実践	郷土の歴史・文化に関する探究を通じて地域への誇りを深め、宗像の魅力を自らの言葉で多角的に発信する力を育てる。		
		宗像でのフィールドワークを通じて地域課題を発見し、中学生独自の視点で解決策を提案する経験を積ませる。		
		世界的な課題と日々の学びのつながりを理解し、「誰かのために」できる身近な社会貢献活動を主体的に実践しようとする力を育成する。		
	他者と対話し、共に創り上げる「協働性」の涵養	相手の背景を想像して聞く「傾聴力」と、自分の考えを論理的に伝える「発信力」を、日々の対話を通じて育成する。		
		学校行事において、意見の対立や困難を「対話による合意形成」で乗り越え、仲間と協力して目標を達成する経験を積ませる。		
		学級や学年の枠を超えた交流、また地域・世界の出来事への関心を通じ、自分とは異なる文化や意見を尊重できる広い視野を養う。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教育計画課	本年度の重点目標を実現するため教育計画について研究する。	学習指導を通じた生徒の人格の形成に全教科で取り組む。		
		生徒の実態に応じて柔軟な指導計画を作成し、学習活動を支援する。		
		地域貢献活動や様々な研修等に参加し、誇りや愛着をもちやすい環境を整備する。		
	幅広い教養の獲得を促す学習指導の充実を図る。	6年間を見通し、学年や教科を超えて協力してやり抜く力の育成を図る。		
		生成AIなどを活用し、多様化する生徒全員が達成感や充実感を感じられるようにする。		
		生徒の実態に応じて、個々に適した評価方法の研究を進める。		

企画広報課	教育目標達成に向けた中・高の緊密な連携とPTA活動の主体的・積極的な運営を確立する	儀式、式典等の行事等を効果的、効率的に実施するために中・高でより一層の連携を図る。				
		各学年、分掌、中・高が連携し、効果的・効率的な取組のもとPTA活動の促進につなげる。				
		PTA活動の主体性を促進させ、学校運営の活性化につなげる。				
企画広報課	様々な方法で情報発信を行い、効果的な広報活動を展開する。地域や大学と連携を図り、地域貢献活動を積極的に行う。	HPやSNSでの情報発信を毎週行うことで、Instagramのフォロワー数4,000人(33%up)を達成する。				
		宗中・宗高を体感できる企画（宗高体験Dayなど）を増設し、本校の志願者増に繋げる。				
		宗像市、高校・大学と連携を図ることで、ボランティアなどの様々な活動に生徒が参加できる機会を創出する。				
生徒支援課	生徒の学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を奨励し、生徒一人一人の学校満足度の高揚を図る。	鳳雛祭や体育祭などの学校行事において、生徒が達成感や充実感を得られる場面を提供する。				
		生徒が自己の役割を自覚し、帰属意識を高められるよう導く。				
		行事において係活動の細分化を行うなど、生徒が自己肯定感・自己有用感を高められるような支援を行う。				
生徒支援課	高い規範意識と自律の精神、感謝と思いやりの心をもった生徒の育成を目指す。	家庭と連携し、生徒の時間管理、自己指導の能力を育成する。				
		周囲の環境への感謝の気持ちや思いやりある態度の涵養を図る。				
		生徒一人一人が自ら進んで挨拶をし、互いにコミュニケーションを図り、明るく健康的に学校生活を送れるように支援する。				
保健環境課	生徒の健康に対する意識向上を図り、心身ともに健康で安心した学校生活を送ることができるよう、生活環境を整える。	生徒情報を把握し、全職員・SCなどと共有することにより、生徒のニーズに応じた適切な指導に繋げる。				
		スクールカウンセリングの相談活動を広め、生徒や保護者が活用しやすいと感じるように支援体制を整える。				
		外部機関との連携を強化し、職員研修を効果的に活用するなどして、適切な生徒対応、保護者対応を行う。				
保健環境課	感謝と思いやりの心をもって主体的に学習環境を整えることができるよう、美化衛生活動を定着させる。	美化委員会の活動を充実させ、生徒が身の回りの整理整頓や学習環境の整備に主体的に取り組ませる。				
		学校行事前の清掃活動や道徳で学んだことなどを結び付けた指導を行い、美化衛生活動をとおして感謝と思いやりの心を育む。				
		保健委員会の活動を広く伝えることで、感染症対策や保健衛生活動の浸透を図る。				

進路支援課	生徒一人一人に寄り添ったきめ細かい進路指導を実践する。	『夢に向かって』を活用し、計画を立て、日々の学習を粘り強くやり抜く習慣を定着させる。				
		各種検定やコンテストの情報を提示し、チャレンジする生徒を支援する。				
		外部模試を活用し、担任および教科担当の指導力向上につながるよう支援する。				
進路支援課	年間を見通した指導体制の強化を図り、高校進学後に多様な進路希望が達成できるように支援する。	ALPSと連携して学年に応じた総合的な学習の時間を計画し、実施する。				
		ALPS・学年・教科と連携して1人一台端末の活用の推進を図る。				
		職業調べ、大学学部学科調べ等を通して具体的な進路先を考える活動を支援する。				
図書研修課	生徒の主体的な学びや協働的な活動を支援する「学習情報・読書センター」としての機能を充実・向上させる。	学年・選書委員会・進路指導課・ALPSと連携する。				
		蔵書の充実を図るとともに、図書館にある書籍・情報を紹介・案内し、探究的な学びを支援する。				
		授業や図書館行事を通して、主体的な読書活動を奨励する。				
図書研修課	授業力向上を図るため、校内研修の充実とICT・AIの活用を通して授業改善を推進する。	他分掌と連携し、校内研修を充実させ、授業実践や教育課題に関する情報共有と指導力向上を図る。				
		AIや1人1台端末等のICTを活用した授業実践について情報共有などを行い、授業改善につなげる。				
		授業アンケートや研究授業を通して授業を振り返り、教科や分掌を越えた協議を通して授業の質の向上を図る。				
ALPS	生徒の興味・関心を各教科・社会と結びつけ、社会課題に対して新たな価値を創造することができる生徒を育成する。	宗像でのフィールドワークを通じて地域課題を発見し、中学生独自の視点で解決策を提案する経験を積ませる。				
		興味・関心が社会と結びついている生徒の割合を80%以上にする。				
		探究活動で社会に活用する取り組みを提案する生徒の割合を50%以上にする。				
ALPS	学年・分掌との連携を行い、生成AIを活用して主体的に学びを深めることができる生徒を育成するための環境を整備する。	生成AIの特性を正しく理解できるような授業の計画を行い、実施する。				
		学習等で生成AIを利用する機会を学期に1回程度実施する。				
		教員・生徒への生成AIの活用方法・事例を定期的に提供する。				

第1学年	「夢に向かって」や係活動、学校行事等を活用することにより、生徒の自己管理能力を育み、学校生活への適応感を高める。	「夢に向かって」の活用を通して、生徒の自己管理能力を育成し、規則正しい生活習慣の確立を図る。					
		係活動や学校行事での役割を通して、宗像中学校の一員としての自覚をもたせつつ、人間関係の構築を図る。					
		自らの目標に向けて「夢に向かって」を活用することにより、目標に対する進捗状況を把握させ、自己指導能力の向上を図る。					
	自ら主体的に活動することのできる資質と能力を育成する。	集団的行事を通して、自らの役割をもたせ、振り返りにより自己の課題に気づかせる。					
		学校行事における目標設定や役割分担を通して参加意欲を高め、同学年、異学年での関係性を高める。					
		教育的活動で意図的に自己決定の場面を設定し、主体的に活動する素地をつくる。					
第2学年	中堅学年としての立場を自覚させるなかで、生徒の主体性と責任感を育む。	係活動や委員会活動等、日々の仕事を通じて、責任感を育む。					
		学校行事を通じて、コミュニケーション能力を育む機会を多くもつことにより、異学年間や級友との信頼関係を高める。					
		生徒会活動を活用し、学校行事に参画する態度を育む。					
	将来の夢や志を持たせることで、一人一人が自己実現に向かう態度を育てる。	「夢に向かって」を活用し、自己管理能力の向上を図る。					
		職業調べにより職業への興味・関心を高め、学習意欲を高める。					
		体験活動を通して、自己肯定感や自己有用感を高める。					
第3学年	自ら変化することを恐れず、高い目標を設定し挑戦する勇気と互いを尊重する態度を育む。	卒業論文作成を通して、プレゼン能力と遂行力を高める。					
		総合的な学習の時間での体験活動等をもとに社会や地域の課題を見出し、中学生独自の視点で解決策を提案する経験を積ませる。					
		キャリア教育を通じて、個々の生徒にあわせた高校進学後の高い目標を設定し、挑戦しようとする態度を育成する。					
	感謝と思いやりの心を基盤に、多様な他者と対話し、信頼関係を築きながら協働して互いを尊重し合える生徒を育む。	他者と意見交流する場を総学や学活、「特別の教科 道徳」等で意図的に設定し、自己理解を深める。					
		学校行事において、意見の対立や困難を「対話による合意形成」で乗り越え、仲間と協力して目標を達成する経験を積ませる。					
		学級や学年の枠を超えた交流を通じ、自分とは異なる意見を尊重できる広い視野を養う。					